

図書館 だより

泗水図書館 ☎ 0968 (38) 6866
 中央公民館図書室 ☎ 0968 (25) 1672
 七城公民館図書室 ☎ 0968 (25) 1580
 旭志公民館図書室 ☎ 0968 (37) 3111
 内線 303

閉館日・閉室日

泗水図書館 月曜日・月末・祝日
 中央公民館図書室 火曜日・第1日曜日・祝日
 七城公民館図書室 日曜日・祝日
 旭志公民館図書室 日曜日・祝日

菊池市図書館ホームページ <http://www.kikuchi-lib.jp/>

司書のつぶやき
 文庫の棚が増えました♪
 文庫本って持ち歩けるので、いつでも楽しめて便利ですよね。
 ホタル



新着・お薦め図書

泗水図書館

人魚ノ肉 木下昌輝 著
 太陽は気を失う 乙川優三郎 著
 院内カフェ 中島たい子 著
 アンタッチャブル 馳 星周 著
 「贈る」と「お返し」のマナー 松本繁美 監修
 コウケンテツのおやつめし コウケンテツ 著
 かわうそオスカーのすべりだい ナサニエル・ベンチリー 作
 およげないさかな せなけいこ 作・絵

中央公民館

読んだら忘れない読書術 樺沢紫苑 著
 超訳ニーチェの言葉 フリードリヒ・ニーチェ 著
 いにしえをめぐる奈良の山歩き里あるき 竹内康之 著
 はらべこ万歳! たかぎなおこ 著
 カカシ秘伝 氷天の雷 東山彰良 著
 一期一会お話し 10 コツめあわせ。 チーム 151E 作
 タマとボチの大冒険 (タマの3丁目物語) ソニー・クリエイティブ・ブダツ 作

七城公民館図書室

できる子になる10歳からのお手伝い <月刊クローヨン>編集部 編集
 はじめてのお菓子作り 主婦の友社 編
 とうもろこしくんがね・・・ とよたかずひこ 作/絵
 ウツつきとスパイ レベッカ・ステッド/樋渡正人 作/絵

旭志公民館図書室

ゆらやみ あさのあつこ 著
 零の進軍大陸打通作戦湖南進軍上・下 吉岡義一 著
 カエルと王かん なかじまゆうき 作
 いろいろだんご 山岡ひかる 著

こんにちは！ 泗水図書館です♪

泗水図書館は平成9年に開館し、図書約83,000冊、CD約1,200本・DVD約500本を所蔵しています。自然光を取り入れた明るいフロアと木製の本棚が居心地の良い空間をつくり、館内はバリアフリー構造で段差がなく、車いすやベビーカーでも利用できます。

おはなし会やイベント・講座などを企画していますので、ぜひご参加ください。毎週水曜日は午後7時まで開館しています。「市民の本棚」として、親しまれる図書館を目指しています。皆様のご利用をお待ちしています。



私たち司書になんでもお尋ねください♪

耳より情報

動物を大切に！

9月20日(日)～26日(土)は動物愛護週間です。もう一度動物との関わり方を考えてみませんか。七城公民館図書室では、ペットの飼い方や写真集などの動物に関する本を集めました。ぜひご家族で図書室へお越しください。



☆七城公民館図書室おはなし会☆

毎月第三土曜日におはなし会を行っています。絵本や紙芝居など、図書室の司書が読み聞かせをします。ぜひお越しください♪

とき 9月19日(土) 午後2時～
 ところ 七城公民館図書室



万句の里俳句会 7月例会

梅雨の川岸辺の草を踏み倒し 光本とよいち
 青田波仕事一途の父を恋ふ 小山 照子
 青々と風の通える植田かな 田中 美智
 大海へ逸りて光る岩清水 丸山美代子
 願事絶ゆる事なし梅雨の寺 岩木 敬治

せせらぎ俳句会 7月例会

七夕に曾孫の手形笹揺らす 服部 静子
 昼寝出来ぬ吾が性かなし病めばなほ 寺本 和子
 戸のじり軋み和らぎ梅雨明け 藤本アツ子
 地を出でし歓喜の声や蟬しぐれ 五丁 義昭
 孫抱けばまだ柔かき栗の穂 藤本 邦治

旭志文芸教室俳句の会7月詠草

梅雨出水堰越す水の強さかな 水谷 ミネ
 梅干しも今年限りと重石置く 芹川のり子
 紫陽花や声響き合う論語塾 中尾ヨシコ

肥後狂句桜会 7月例会

老いのケア体験ひと日の髪洗ふ 芹川 蓉子
 老いの一徹 国宝にまで登りつめ 高木 房恵
 腹八分 皆でやれば医者殺す 高倉 新米
 謎 場所は卑弥呼に聞きなほり 辻 弘喜
 聞いたかい 自慢の孫はフリーター 藤野 清子
 好き勝手 筆順なんて気にもせん 光堀 善教

肥後狂句水笑会 7月例会

台所 一寸一服リラックス 平井 紅彩
 懐かしい ときめき過ぎて捨てられ 小崎 海美
 懐かしい 泥鰌ドンクワチ取った井手 井手 水光
 高望み ケンブリッジか東大か 続 義昭
 活火山 媽はちよいちよい噴火する 山隈 好茶

七城短歌会 7月詠草

刈払機快音立てつつ繁りいる畦草剃るがに爪刃が切る 緒方 正俊
 池の端の草刈ると来し梅雨晴れ間羽黒トノボの二匹が舞うも 高木 精

病得て手つかずの花壇カサブランカ
 の一株今を咲きさがるなり

給湯機の表示の三灯星座なす乱視が
 厨に真夜なる出前 佐々 重弘
 娘と孫と組み立て終えしな提灯に灯
 りを点すあなたの灯り 緒方 寛子

「里」短歌会 7月詠草

夕べにも朝目覚めても坐禅為す夫の
 日常恙なくあれ 宮本 淑子
 整理して見紛うほどになりし部屋息
 子に感謝す梅雨の続く日 松本 幾代

高齢者大学文芸部 7月歌会

肌寒く小雨降るなか蛍舞う光り灯し
 て淋しげに舞う 岩本サヨ子
 子どもらは届かぬ足を揺らしつつ真
 つ直ぐ向きて論語の素読 坂本 玲子
 ジャズ流れ淡き光りに照らさるる夫
 の横顔唇噛みしめて 江頭 桂子

山下 菊代

初堀りの牛蒡を積みて帰り来ぬ孫は
 凱旋のごと口笛響らし 山下 菊代
 限りなく視野の広がる水張田を水鳥
 番ゆつくり歩む 北村 玉恵
 「足が重い」看護師さんのつぶやきを
 間近に聞きて用事ためらふ 山代 静子

文芸 きくち

山々の緑は淡くまた濃く椎、樟、楓彩
 り重ね 岩根 博恵
 かに、いくら、ほたて、ほっけと海の
 幸戻りたくない道南の旅 山田 弘子

菊池短歌会 8月詠草

あら草の中に小さく光る花文字摺草
 の風に揺れるる 岩永 典子
 戦にて肉親亡くすは絶対にいやだ賛
 成するものこの指とまれ 古賀 勝士
 メディアみな閉ざしてこもる産土の
 峡にながるる昔の時間 怒留湯健蓉
 人の世の未練はらふや竹落葉錐もみ
 落つる光ちらして 中川 愛子
 谷あげて二センチほどの蟻螂の子虎
 豹の貌して我を威嚇す 林 まつ子